



2021-2022
国際ロータリーのテーマ

高萩ロータリークラブ

TAKAHAGI
ROTARY CLUB
WEEKLY

国際ロータリー第2820地区
1970年10月30日設

発行
2022.2.2
第52巻
第25号
通巻
2445号

ロータリー月間 平和構築と紛争予防 来月:水と衛生 特別 月間

1月29日 例会より

『第1分区 インターシティ・ミーティング』

コロナ禍第6波の困難を乗り越え

第1分区

INTERCITY MEETINGU

1月29日(土) オンラインで開催



鈴木稔ガバナー補佐(写真上)をリーダーに、日立港ロータリークラブをホストクラブとして、もともと、日立市おおみか町の日立オリジンパークで開催予定であったIMが、新型コロナウイルス感染症の急拡大のなか、多くの困難を乗り越え、日立市旭町、ホテル天地閣をメイン会場にして、Zoomによるオンライン大会として開催された。

新井和雄第2820地区ガバナー、池田正純IMリーダーを始め来賓の参加を賜り、第1分区日立RC、日立南RC、高萩RC、北茨城RC、日立北RC、日立中央RC、日立港RCの会員が参加、さらに茨城県北RAC、茨城キリスト教学園

高等学校インターアクトクラブ、区内の米山記念奨学会奨学生4名が、それぞれリモートで参加した。参加者総人数は後日確認されるが、150名を超え、盛大に開催された。

当クラブでは、15名の参加登録をしていたがインターネットをしていない会員もおり、「月乃家」例会場を、第1会場に設定し、自宅会場も含め、午後2時から参加した。

冒頭、主催者あいさつに立った、鈴木稔ガバナー補佐は、シュカール・メーター会長の「奉仕しようみんなの人生を豊かにするために」、新井ガバナーの「地球の未来を想い、地域社会に貢献しましょう」のテーマスローガンに符合した「海岸美化プロジェクト」を実行できたことを高く評価した。そして、本日大会の運びとなったことを歓迎し、感謝の言葉をのべた。

新井和雄ガバナーのあいさつ

来賓を代表し筑西市の本部から、新井ガバナーのあいさつである。

「鶯の鳴き声が聞こえるようになり、公式訪問以来第1分区の皆さまとは、久しぶりの再会です。IMが県内のトップを切って、盛大に開催されることを心からお祝い申し上げます。

今日、地球環境は危機的に変動しており、文明社会の持続可能性が脅かされています。

その中で、第2820地区がホストとなった「地球環境保全グローバルプロジェクト」に、3万2千人が参加し世界中を巻き込んだ「ロータリー奉仕デー」に

月日	プログラム	担当	1月29日 出席報告		
			会員数	出席者	欠席者
2月2日	卓話 公共イメージの向上	同委員会 ZOOM 例会			
2月9日	24-25年度DGを展望して	会長 ZOOM 例会	29	15	13
2月16日	クラブ協議会)	会長・幹事 ZOOM 例会	出席率: 100%		
2月23日	休会(天皇誕生日)		前々週訂正: 100%		

事務所: 〒318-0033 高萩市本町2-65
常陽銀行高萩支店内 TEL/FAX: 0293-24-0505

URL: <https://www.takahagirc.jp>

E-Mail: takahagi-rotaryclub@h7.dion.ne.jp

会長: 鈴木直登

幹事: 小森勇一

例会: 毎週水曜日 12:30~13:30

公共イメージ委員: 小森勇一 大河原浩 大高司郎
棚谷稔 田所和雄 石平光 今川隆 大平敏明 滝徳宗

四つのテスト

言行はこれに
照らしてから

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



上 新井ガバナーの話を聞く、当クラブの会場

を成功に導くことができました。

これには、第1分区の皆さんの団結した活動があつての成功と感謝しています。」

ガバナーは、このような挨拶をされ、今回、IMが、国境なき医師団を招いて研修することを高く評価しました。

第1部 講演

テーマ

疾病の戦いの最前線から学ぶ

国境なき医師団日本理事

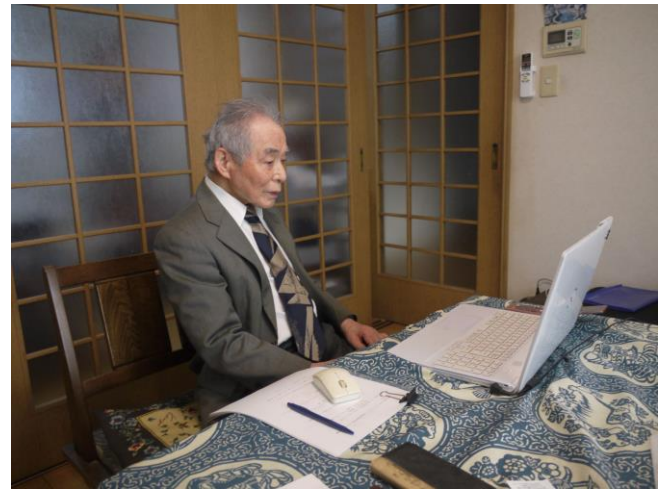
医師 高橋健介 先生



講演はまず、先生の自己紹介から始まり、いかにして、医師団にかかわるようになったのかに始まり、「国境なき医師団」の創立、活動、組織、財政基盤、参加する先生やスタッフの現場での実際の活動と、具体的なお話をいただいた。

国境なき医師団は、途上国の国々、国境に関係なく世界中で、医療と人道支援を行う非政府組織N GOである。はじめは、フランスの医師団が、医療は国境を越えて優先するという理念のもと1972年に設立された。世界中に約30の事務局があり、日本でも1992年に発足、75名のスタッフが、年間30回を超えて海外に出て活動している。

1999年ノーベル平和賞を授与されているが、医師団のボランティア活動は、診察と治療、病氣



(上 リハビリのため、外出を控え、しばらくお休みしていた花園文熙会員も、今回は、ZOOMに参加、写真をいただいた。)

の予防、心理的な支援であるが、現地の劣悪な生活環境のもと、様々な活動を強いられている。

医師、看護師、運送や建築、コーディネーター等、様々な専門家が集まってプロジェクトが実行されている。

派遣される国として名前の挙がった、アフリカのエチオピア、スーダン、コンゴ、ナイジェリア、南米ハイチ、アラビア半島イエメンなど、世界のロータリークラブも注目して取り組んでいるところである。

エボラ出血熱、マラリア、というような、度々聞かれる地域で絶滅されていない、風土病のような病気だけでなく、衛生状態の劣悪な環境から発生する疾患、体調不良、栄養失調等あらゆる病氣と取り組んでいることを伺った。

病院施設がなく、また、薬がないことも問題だが、文化の違いの中で、薬の過剰投与や、服薬の間違いも数えきれない。

文化の違いは、「God leads her 神様が私を導いてくれる」というように、簡単に、死を受け入れてしまうことも多い、そのこととも戦わなければならない。

大変困難な、また危険な現場でのボランティアを遂行するスタッフの活動を支え、推進する意欲や心、そのエネルギーは、「社会は助け合いで成り立っている」という確信であり、自己実現の欲求というより、私という自己を超越した所の欲求ではないかと、伺った次第である。

医師団はN GOとして政府の資金で仕事をしているのではなく、多くの人の寄付によって支えられている。

「独立、中立、公平」を原則として人種や宗教、政治にかかわらず、命の危機に直面している人々に無償で医療を提供する。



スタッフは最低限の生活保障の中で活動している。その活動の資金は世界中の人々の寄付でなされている。

それだけに、現地に入って直面する悲惨な状況を発信することの重要性を、先生は強調していました。

この講演を伺い、上の写真にあるように、国境なき医師団では世界の人びとに、まず知ること、理解すること、そして、広めること、具体的な行動として寄付に参加すること、さらに、実践的に活動に参加することを広く世界に訴えています。

新型コロナウイルス感染症の対策についても全世界で取り組んでいることを強調していました。

先生の講演は、困難な現場で活躍する気迫と熱意を、パソコンの画面からも感じられ、深い感銘と共に、私たちの奉仕活動にも大きな示唆をもたらす内容であった。

総評 IMに寄せて

第1分区IMリーダー

直前ガバナー 池田 正純 様

最後の総評に登壇したのは、今回のIMのリーダーの、池田正純直前ガバナーである。

概略、次のような総評で、締めくくった。

IMとは、ロータリアンの相互理解と親睦、そして立派なロータリアンを育てることにあります。

インターシティ・ミーティングとは、敏連合会といった意味ですが、本日、このIMで得た成果を活かし、明日からのロータリーの発展のための良き糧として、親睦と奉仕の実践に役立てていただきたいと思います。

現在国際ロータリーは、会員の減少や難しい問題を抱え、新しい方向を模索しています

そのような中 本日のIMは、最も時節に適したテーマを掲げて実行、素晴らしい大会であったことに、厚く御礼申し上げます。

今回は、コロナ対策の蔓延防止等重点措置の適用期間でもあり、第2部の懇親会は中止となった。最後に、次期ホストクラブである、日立中央ロータリークラブ 佐藤利和会長のあいさつがあり、16時45分、全日程を終了した。



ZOOMの会議による、パソコンの画面

第8回定例理事会の報告

去る1月26日、19:00より定例理事会を開催。

2月、3月のプログラムと、当面の諸課題について協議しました。詳しくは理事会の議事録をご覧ください。2月1日、「ロータリーの友」、月信2月号と共にお届けいたします。

特に2月の例会は、ZOOMによるオンラインの例会といたしております。